

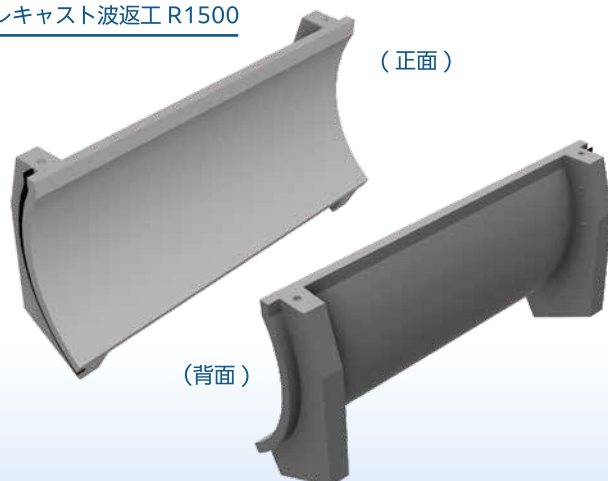
製品概要

プレキャスト波返工R1000／R1500 プレキャスト被覆工H500

近い将来に発生が危惧される高潮から皆様の生活を守るため、老朽化した海岸保全施設（波返工・被覆工）の迅速な整備が求められており、すでに堤防の嵩上げや補強工事が全国的に行われています。従来、波返工は大部分が現場打ち工法で、型枠の組立・解体・生コンクリート打設後の養生等に多くの期間が費やされ、連続した施工が困難で延長を分断した断続的な施工を余儀なくされてきました。また、現場打ち工法で最も問題となる法面被覆部の仕上がり面は、無数に発生するセパレーター痕の処理や、生コンクリート打設時の入念な振動締固めによっても、空気あばた・水みなどの発生を抑えることが不可能でした。

こういった背景のもと考え出されたのがプレキャスト波返工・被覆工です。本製品を使用することで100m以上の連続施工が可能となり、型枠組立・解体に要する工程が省け、製品の設置後、中詰めコンクリートを打設すれば構造物が一気に完成します。その結果、従来の現場打ち工法と比較して30%以上の工期の短縮を実現し、長年の課題であった法面被覆部の粗悪な外観が美しい滑面に仕上がり、中性化等早期劣化の影響を受けにくい、耐塩害性に優れた構造物を構築します。

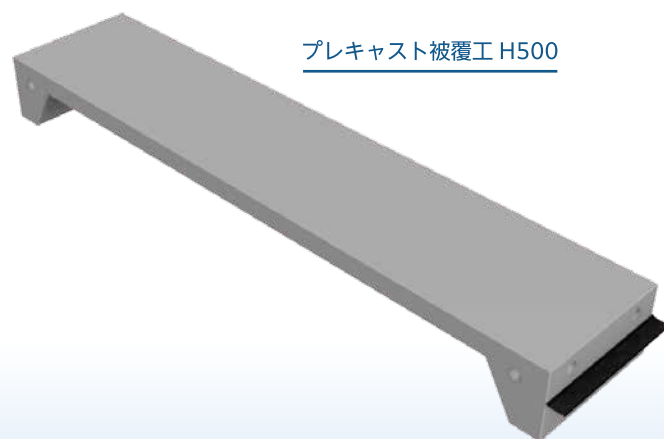
プレキャスト波返工 R1500



(正面)

(背面)

プレキャスト被覆工 H500



特長

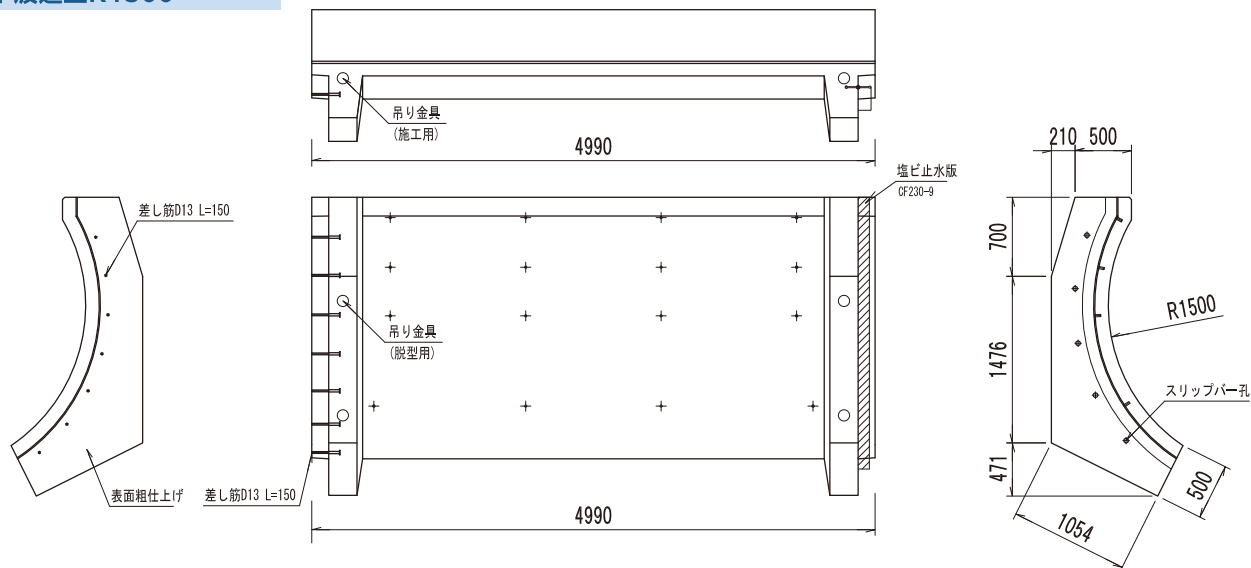
- ◆ プレキャスト化により工期の短縮ができ、足場、落下防止柵等の安全対策費等が削減されることでトータルコストの縮減が期待できます。
- ◆ プレキャスト化によって、美観や品質が備わった美しい構造物に仕上がります。
- ◆ 100m以上の連続施工が可能で、製品の設置後、中詰めコンクリートの打設・養生等の工程への移行がスムーズです。
- ◆ 型枠解体時に発生するコンクリートカスや型枠廃材が削減でき、水質の汚濁や周辺環境を破壊しません。
- ◆ プレキャスト化することで、現場打ち波返工と比較して中性化等による経年劣化がしにくい耐久性のある構造物となります。



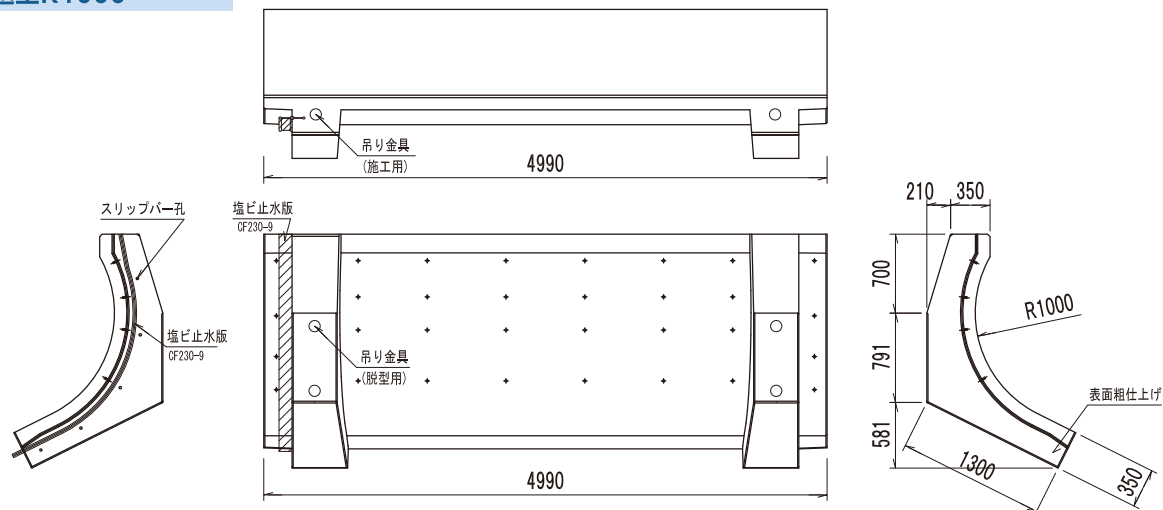
プレキャスト波返工R1000／R1500 プレキャスト被覆工H500

製品図面

プレキャスト波返工R1500

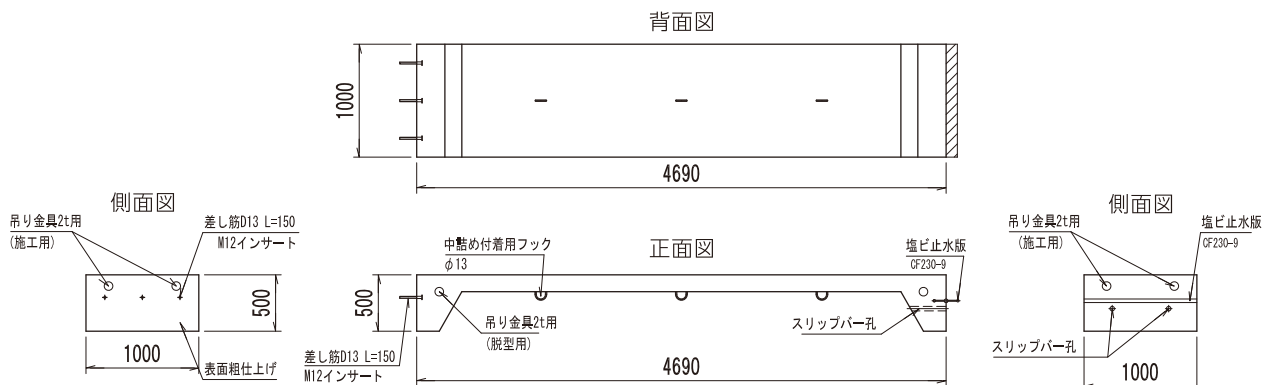


プレキャスト波返工R1000



名 称	寸法規格	参考重量(kg)	体積(m³)	中詰コンクリート(m³)
プレキャスト波返工R1500	L=4990 R=1500	5830	2.38	5.73
プレキャスト波返工R1000	L=4990 R=1000	5461	2.229	2.974

プレキャスト被覆工H500



名 称	寸法規格	参考重量(kg)	体積(m³)	中詰コンクリート(m³)	間詰コンクリート(m³)
プレキャスト被覆工H500	500×1000×4690	2237	0.91	1.44	0.15

プレキャスト被覆工



1 製品の吊り上げ

- ◆ ワイヤー4本とシャックル4個を用意してください。
- ◆ 安全の為、吊り荷の下には絶対に入らないでください。
- ◆ 弊社から貸し出した吊り金具(施工用※)を、製品側面の4か所の吊りフックに確実に掛け、製品を吊ってください。
- ◆ 吊り金具の取り扱いには注意してください。
- ◆ 掛けりが緩いと製品が脱落するおそれがあります。

吊り金具(施工用)



※吊り金具は工事終了時にご返却願います。

2 製品の据え付け

- ◆ 丁張りを行い、製品の施工位置ラインを確認しつつ、安全に据え付けを行ってください。
- ◆ 据付時は製品で手足を挟まないよう十分注意してください。



3 製品の目地

- ◆ 製品側面に目地材の貼り付けとスリッパバーの設置を行います。

プレキャスト被覆工

4 中詰めコンクリート打設

- ◆ 据付後、製品内部に中詰めコンクリートを打設します。



中詰めコンクリート打設

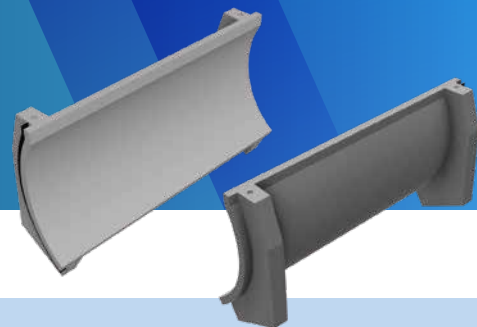
5 タイバーの設置

- ◆ 据付後、製品内部にタイバーの設置を行います。
- ◆ この工程を順番に繰り返します。

6 間詰めコンクリート打設

- ◆ 止水板、スリップバーの箇所に間詰めコンクリートを打設し、表面を丁寧に均して仕上げます。

プレキャスト波返工



1 製品の吊り上げ

- ◆ ワイヤー2本とシャックル2個を用意してください。
- ◆ 安全の為、吊り荷の下には絶対に入らないでください。
- ◆ 弊社から貸し出した吊り金具(施工用)を、製品天端の2か所の吊りフックに確実に引っ掛け、製品を吊ってください。
- ◆ 吊り金具の取り扱いには注意してください。
- ◆ 掛かりが緩いと製品が脱落するおそれがあります。

※吊り金具は工事終了時にご返却願います。

2 製品の据え付け

- ◆ 丁張りを行い、製品の施工位置ラインを確認しつつ、安全に据え付けを行ってください。
- ◆ 据付時は製品で手足を挟まないよう十分注意してください。



3 製品の目地

- ◆ 製品側面に目地材の貼り付けとスリップバーの設置を行います。

4 中詰めコンクリート打設

- ◆ 据付後、背面から型枠をあてます。
- ◆ 製品と型枠の内部に中詰めコンクリートを打設します。
- ◆ 均し面を丁寧に仕上げます。

